

- 一、中医推拿療法の特徴と中医蔵象理論
- 二、すいな健康法——「耳鳴り」の改善と予防
- 三、顔面神経麻痺症の改善における中医推拿療法の応用
- 四、推拿療法の基本手技（その2）
- 五、推拿練功の紹介——「单手拉金環」

一、中医推拿療法の臨床特徴と中医学蔵象理論

（一）推拿療法の臨床特徴

1. 中医学の角度
2. 弁証論治の方法
3. 体外体表での施療
4. 徒手の療法
5. 治療予防兼用

（二）体外体表での施療

1. 施療の対象 ①皮膚 ②筋肉 ③骨・関節 ④脈
2. 中医学の考え ①皮・肉・筋・骨・脈 → 中医学の五体
②蔵象理論に基いたこと

（三）蔵象理論について

1. 蔵象理論の地位
2. 蔵象理論の効用
3. 蔵象理論の字義
4. 蔵象理論の内容
5. 推拿療法における応用

二、推拿健康法——「耳鳴り」の改善と予防

1. 推拿手技：①摩擦法 ②按揉法
2. 推拿腧穴 ①聴宮穴 ②翳風穴 ③腎兪穴 ④太谿穴

三、顔面神経麻痺症の改善における中医推拿療法の応用

顔面神経麻痺症についての病症概念

軽症の場合現代医学の名称で、中医学の名称は「口眼歪斜」「面癱」

定義：顔の半分あるいは顔面の一部分が思うように動かせなくなる状態の病症。

（一）弁証

1. 主な症状：◆顔面筋肉の弛緩無力

- ◆顔面部感覚異常（マヒ、過敏）
- ◆顔面部自主運動障害（閉眼、閉口 等）

2. 病症部位 表 —— 顔面部（筋肉・経絡） 裏 —— 臓腑（脾胃・肝胆・心）

3. 病状虚実 本虚標実・虚実夾雜

本虚：●気血両虚 標実：●風邪襲絡 ●痰湿阻絡

4. 病性寒熱 寒証：虚寒（本虚）・実虚（痰湿） 熱証：実熱（肝風）

5. 発病緩急 急性期 突発的に発病 1日～7日
回復期 病気緩和回復 7日～1月
後遺症期 後遺症の残留 1ヶ月以上

（二）顔面神経麻痺症の推拿治療

1. 治療原則（治法）

「疎通経絡・行気活血・筋肉整復・臓腑調和」

2. 推拿療法の処方

①経脈（けい みやく）

督脈 任脈 膀胱経 胆経 胃経 大腸経 小腸経 三焦経
心経 心包経 肝経 脾経

②腧穴（ゆ けつ）

〔近部取穴〕 百会 印堂 風府 風池 翳風 太陽 瞳子髎 陽白
攢竹 睛明 四白 迎香 顴髎 地倉 頰車 下関 水溝 承漿

〔弁証取穴〕 風証：風門 膈兪 肩井 曲池 外関

湿証：肩井 曲池 足三里 豊隆

虚証：〔肝〕 肝兪 期門 太衝

〔脾〕 脾兪 章門 太白

〔心〕 心兪 膻中 神門/大陵

〔胆〕 風市 陽陵泉

〔胃〕 足三里 上巨虚 下巨虚 豊隆

〔気〕 命門 関元 氣海

〔血〕 膈兪 中脘 血海

③手技

一指禅法 滾法 揉法 指压/指按法
摩法 推法 擦法 抹法 叩法 拍法

3. 推拿施療

- (1) 施療の体位 仰臥位・坐位
- (2) 施術の順序
 - ① 摩法/滾法
 - ② 按（圧）法、按揉法/一指禪法
 - ③ 推法、抹法、擦法
 - ④ 叩法、拍法
- (3) 手技の刺激度 適度
- (4) 施療時間 一回につき 30 分～40 分
急性：毎日施療 慢性：週に一回

三、推拿療法の基本手技（その2）

- 加圧類手技
- 1. 按法/圧法
 - 2. 点法
 - 3. 拿法
 - 4. 捏法

四、推拿練功の紹介——「少林内功・単手拉金環（たん しゅ らつ きん かん）」

- 1. 基本姿勢
- 2. 動作
- 3. 呼吸
- 4. 意念（イメージ）